



教育学

教育行政学研究

第4号 (1982)

米国教育委員会制度の編成原理の展開2) 岩永 定

米国における州教育委員会と教育長との権限関係 松元 健治

学校経営における意思決定の態様とその規定要因
— 第二次報告 —

名和	弘彦	上原	貞雄
中原	実道	倉田	侃二
前原	健三	岡崎	公典
岡本	徹	松元	健治
古賀	一博	菅井	直也
谷奥	彰		

《文献紹介》

探索的データ解析の方法 池田 輝政
— 教育行政学研究に対する数量的アプローチのひとつとして —

西日本教育行政学会

6-1

ま え が き

昭和57年4月1日より、「西日本教育行政学会」と本会の名称は従来の「教育行政学研究会」から発展的に改められ、その会長職に不肖の私が就任することとなりました。

前会長の名和弘彦先生には、昭和54年の本会発足以来多大の御尽力を賜わり、研究会開催3回、発表者延18人、機関誌「教育行政学研究」発行3回、論文延21編を数えるという本会の急速な成長・発展を可能にして下さいました。本年度からは副会長として引き続き御協力を賜わり、また、事務局を広島大学の教育行財政学研究室に引き続きお引受けいただきました。まことに感謝の申しあげようありません。

「教育行政学研究」もここに第4号の発行を迎えました。3号雑誌という言葉があるように、どんな機関誌でも永年存続するには、それだけの必然性と舞台裏での多大の努力を必要とします。本誌がますます発展しゆく可能性を秘めて、3号に終ることなく順調な公刊を続けることは、会員各位の熱心な御研鑽と本会への支持はもとより編集委員や事務局の御尽力の賜物で、まことに御同慶に堪えません。本号も編集において厳しい精選を経たため、掲載篇数は少ないのですが、質的水準においては学術誌として学界と社会に貢献するところ大きいと信じます。今後とも質の優れた論文が多数投稿されますよう祈ってやみません。

教育行政学の研究は、いま、研究対象の拡大・複雑化・国際化においても、研究方法の多様化・学際化においても、世界的に新たな局面を迎えつつあります。従って、研究上の交流と協力の必要は増大する一方であります。

この3月にカナダ・米国・韓国を巡って、大学入学（入試）制度の調査研究をしましたが、その際に痛感したことは、入学者の決定方式の改革・改善という具体的な実践が、教育行政学その他の教育研究に深く支えられる必要があるという事実です。これは一例に過ぎませんが、教育行政現象に関わる価値と事実の認識や技術の解明は、価値に関わる複雑な対象を研究するだけに、困難な課題性を帯びていますが、反面、その社会科学的な研究成果は教育ひいては人類の社会生活の改善という実践行為につながっております。

本学会の会員は、西日本—中国・四国及び九州地方に御縁のある地縁によって限定されていますが研究の関心・対象・方法は多様であり、相互協力の織り成す研究構造体は無数の可能性を秘めております。今後とも同志の会員数の増加をはかると共に、深く広い協力関係をますます堅固にして、本学会の活動を豊かにものとして行きたいものと、念願してやみません。

会 長 中 島 直 忠

目 次

米国教育委員会制度の編成原理の展開(2).....	岩 永 定	1
米国における州教育委員会と教育長との権限関係	松 元 健 治	17
学校経営における意思決定の態様とその規定要因		31
— 第二次報告 —	名 和 弘 彦 上 原 貞 雄	
	中 原 実 道 倉 田 侃 二	
	前 原 健 三 岡 崎 公 典	
	岡 本 徹 松 元 健 治	
	古 賀 一 博 菅 井 直 也	
	谷 奥 彰	

<文献紹介>

探索的データ解析の方法	池 田 輝 政	73
— 教育行政学研究に対する		
数量的アプローチのひとつとして —		
学 会 彙 報		81
西日本教育行政学会会則		86
西日本教育行政学会機関誌刊行規程・原稿執筆要領		88
西日本教育行政学会会員名簿		89